

## ペットとともに

山田 俊一

### はじめに

「21世紀の消費スタイルに影響を与えるキーワードが2つある。1つは言うまでもなく「IT化」で、もう1つは「少子高齢化」だろう。この2つに密接に関わっている有望市場がある。これがペットだ。」<sup>1)</sup>

ペットとIT化と一見関連はなさそうであるが、アメリカでは、IT化に伴うストレス解消のために犬や猫のペットが増大していると言われている。<sup>2)</sup>

森岡孝二氏の「働きすぎの時代」によると「世界の労働時間は1980年代以降、それまでの減少傾向が止まり、再び増大に転じつつある。なかでも、日本人顔負けのアメリカやイギリスの猛烈な働きぶりや、日本企業で働く中国女性の戦前日本の女工哀史なみの過酷な長時間労働をみれば、いまや世界は新たな「働きすぎの時代」に入っていると言わねばならない。」その原因は、経済のグローバル化の進むなかで生き残り競争が激しくなり先進国も途上国もコスト削減のために賃金の引き下げと労働時間の延長傾向が顕著である。情報資本主義すなわち、情報通信技術の発展は仕事のスピード化、仕事量の増加、仕事時間と個人時間の境界があいまいになり、常に仕事に追いかけている状態をつくりだしている。また、情報技術の高度専門家を生み出すかわら、労働が単純化し、非正規雇用者が増加している。消費資本主義、今日の大衆消費社会においては、拡大する消費欲求を満たすために、より多くの収入を得るためより長く、ハードに働く傾向がある。24時間営業のコンビニ、金融のグローバル化等経済活動の24時間化は長時間労働を促している。フリーター資本主義、今日本では、短時間労働の非正規労働者の増加、一方正規労働者の労働時間は増え働きすぎが強まっている。<sup>3)</sup>

このような働きすぎは現代人の心身のバランスを崩し、激しい競争社会で勝ち負けに厳しく、本当の友人仲間をもつことも難しい。

このストレス解消の一つがペットである。ペットのおなかを触ると、毛むくじゃらでふあふあしている。これがストレス解消に最も効果があるとの研究もある。

一方「少子高齢化」もペット産業を拡大しそうである。子供が少ない、子供が巣立ってしまった長寿世帯（夫婦世帯であれ、一人世帯であれ）、若い単身者でもペットは家庭に潤いをもたらす何よりの仲間である。朝日新聞2005年10月5日付けの墓石のメモリアートの大野屋が実施した意識調査（首都圏の犬、猫を飼っている40?60代の男女にインターネットで質問し、309人から回答を得た）によると、「ペットとお墓も一緒に」という肯定的な回答が53%もあった。「一緒に暮らすペットはどんな存在か」という質問では、91%が「安らぎを与えてくれる」と答え、「家族同様」87%、「可愛い相棒」75%である。これは、ペットを飼っている人々のペットへの意識を表している。ペット関連月刊誌、ペット関連書物も多数発行されている。また、テレビ放送でNHK初め民間放送も犬猫の躰とか、病気の

相談、外国のペット事情等の番組が常時放映されている。寡ってペット飼育は禁止が普通であったが、ペット飼育を許容する共同住宅、マンションが増えている。これは現代人にとってペットとの生活が広く受け入れられていると言える。

ペット関連市場は 2005 年およそ 1 兆円と言われている。他産業で 1 兆円産業には、デジタルカメラ、バイオテクノロジー産業等がある。ちなみに携帯電話市場は 10 兆円で、ペット市場は携帯電話市場の 10%にも達していることになる。

総務省の家計調査 2004 年によると、4) 1 世帯当たり年 12,007 円をペット関連に支出している。乱暴な推定で、全世帯 49,337 千世帯を掛け合わせると約 6,000 億円になる。

ペット関連市場はおおきく

\*生体市場（犬など生き物）

\*フード市場

\*用品市場

\*その他（医療、宿泊サービス、トリミング、ペット飼育・訓練サービス等）

に分けられる。

エース証券（株）では投資判断の資料としてペット関連生産会社を紹介している。例えば日清製粉（ペットフード）、ユニチャーム（トイレタリ - ）、ライオン（シャンプー）、松下電器（遠隔操作カメラ）、トイザらす（ペット用品 500 アイテム扱い）、河合楽器（防音犬部屋）、ナイガイ（犬用に高級素材使用の衣料）、花王（シャンプー）、ミサワホーム（犬と共生住宅）、旭化成（犬と共生住宅）等ですべて有力企業である。5)

ペットフード工業会の 2004 年の「犬猫飼育率全国調査」6) によると犬の飼育は 12,457 千頭、猫は 11,636 千頭である。全世帯に対して犬は 18.8%、猫は 15.1%の世帯が飼育していると推定されている。しかし一方では、時々無責任なペット飼育者のペット遺棄がニュースになっている。このような無責任な飼育者により、遺棄された犬は 2000 年度には、約全国で 50 万頭にのぼりその 9 割が引取手のないまま処分されている。7)

逆に犬等ペットが人間に危害を加えたり、ペットのウイルスにより感染したり課題もある。

「動物の愛護及び管理に関する法律」では「動物の飼い主は、動物の健康と安全を確保し最後まで保護する義務がある、殺したり虐待したりすることを禁じている。罰則も動物をみだりに殺傷した者は 1 年以下の懲役又は 100 万円以下の罰金、虐待遺棄した者は 50 万円以下の罰金が定められている。」

近年ペットは人間の心を癒すだけでなく、生きる支えとなり、「生理的・身体的効果」「社会的改善」「精神的作用」があるとの研究報告がある。

生理的・身体的効果としては、血圧が下がる、高齢者の通院回数の減少、心臓病の進行を防ぐとか。社会的改善としては、長期療養患者間でのペットに関する会話を通じて社会的潤滑油効果がみられる。精神的作用では高齢者にとっては心の支えとなり、子供には生命観を育み精神的成長を促すと言われている。8)

ペットではないが、盲導犬等補助犬を連れた人を公共施設は勿論交通機関・飲食店やホテルで受け入れを義務付けられているが、補助犬との同伴を拒否された犬の使用者は6割にも達しているとの調査もある。9)

人間と動物が優しい気持ちで、お互いに敬意を持って、共存していける社会であることが文化に優れた国の一つの要素であるかもしれない。

ペットは犬猫の他兎等哺乳類や、鳥類、魚類、蛇等爬虫類等多様である。ここでは、犬を中心としたペットとし、ペットの現状を明らかにしたい。なお犬についても盲導犬、聴導犬、介助犬、警察犬等は対象から除く。

### ）犬猫飼育の現状

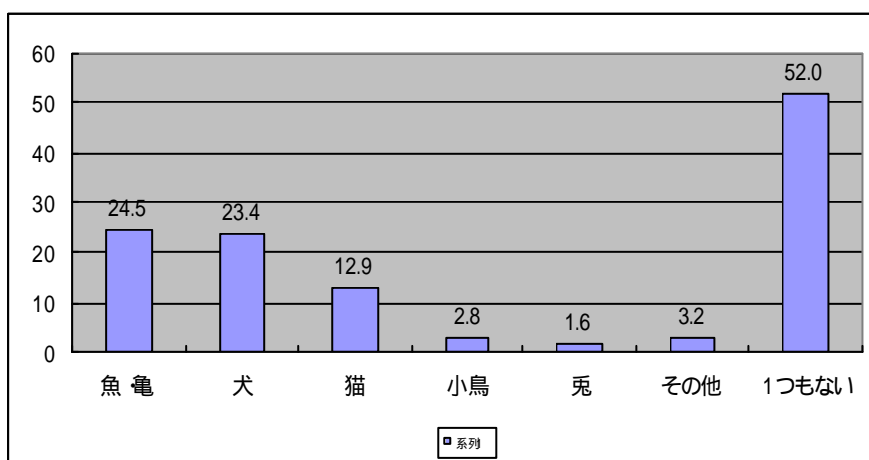
図 1 及び 2 は種類別世帯での飼育率である。何かペットを飼育している世帯が48%である。その中、魚・亀類(金魚・鯉・熱帯魚・海水魚・メダカ)は2人以上世帯の24.5%が飼育していて全世帯では4世帯に1世帯が飼育している。魚・亀類は鯉・熱帯魚など高価なものがあるが、だいたいの魚・亀類は価格が比較的安価であり、手間が余り掛からないことが理由であろう。

犬は23.4%、猫は12.9%飼育されていて合わせて36%の世帯が飼育している(アメリカの飼育世帯率は犬39%、猫34%といわれている)。ペット飼育世帯だけみると犬猫飼育割合は86%を超えている。種類別単独では犬の飼育率が第一である。

単身世帯では魚・亀類・犬・猫の飼育はそれぞれ7%? 8%で同じくらいであり、単身世帯で何らかのペットを飼育している率は21%である。

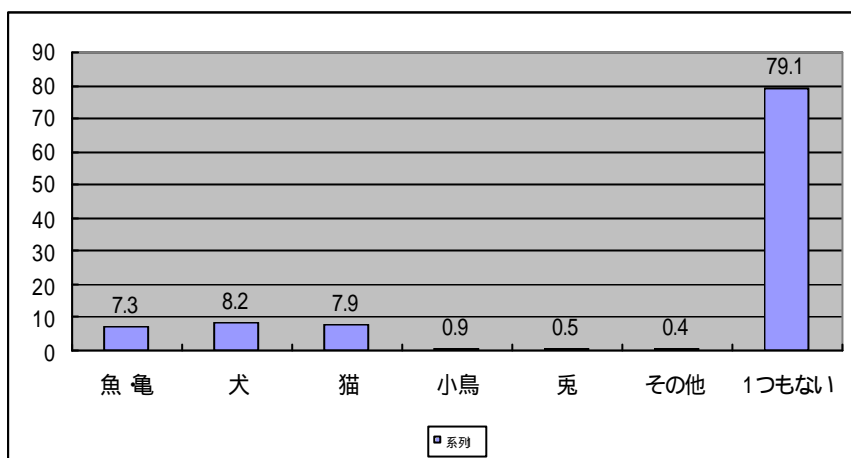
今後飼育したいとの意向に関しては、飼育していない世帯での2人以上世帯の23.4%、単身世帯では19.1%の世帯が今後何らかのペットを飼育したい意向を持っている。10)

図 1 2004年2人以上世帯のペット飼育状況 (単位: %・サンプル数: 24,261)



出所: ペットフード工業会 <http://www.jpffma.org/>.

図 2 2004 年単身世帯のペット飼育状況 (単位: %・サンプル数: 9,925)

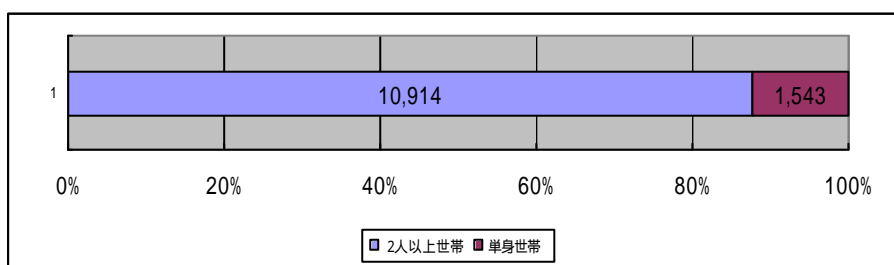


出所: ペットフード工業会 <http://www.jppfma.org/>。

図 3 及び 4 は犬猫の 2004 年の全国推定飼育数と世帯別割合である。

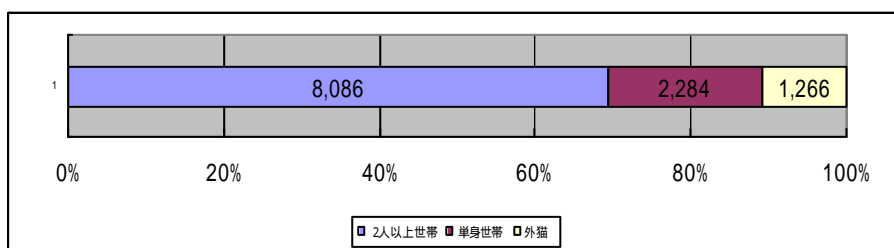
図 5 は犬猫の飼育数の年推移である。図 5 のごとく年々犬猫の飼育数は増加傾向が続いている。今後の人口減少傾向でも先に見たように非飼育世帯の飼育意向は強いことから犬口・猫口は増加すると見られている。

図 3 2004 年犬の全国推定数 12,457 千頭内訳 (単位: 千頭)



出所: ペットフード工業会 <http://www.jppfma.org/>。

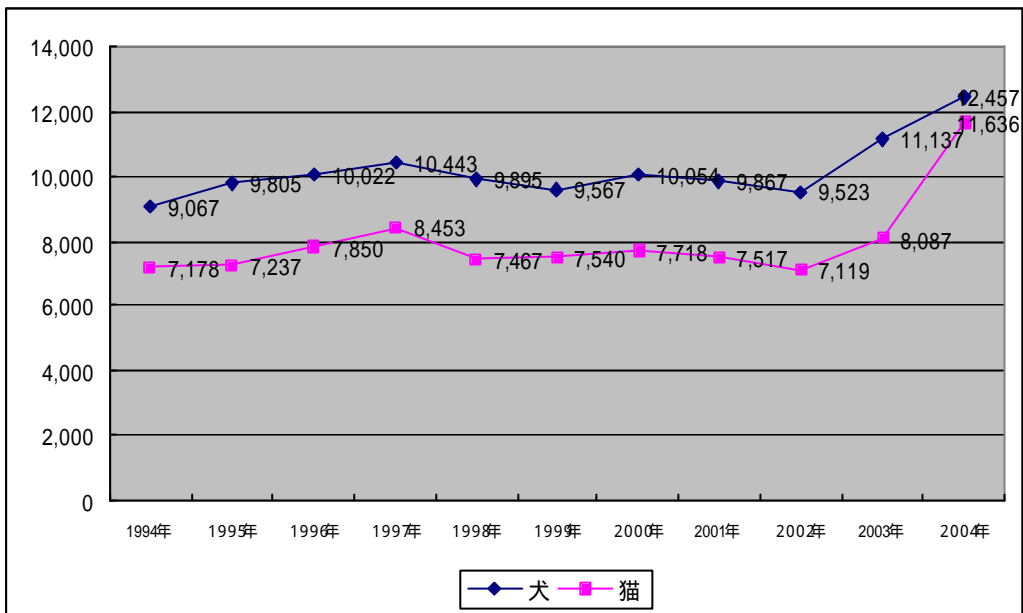
図 4 2004 年猫の全国推定数 11,636 頭内訳 (単位: 千頭)



注: 外猫とは家庭内では飼育していないが、家庭外で保護している猫。

出所: ペットフード工業会 <http://www.jppfma.org/>。

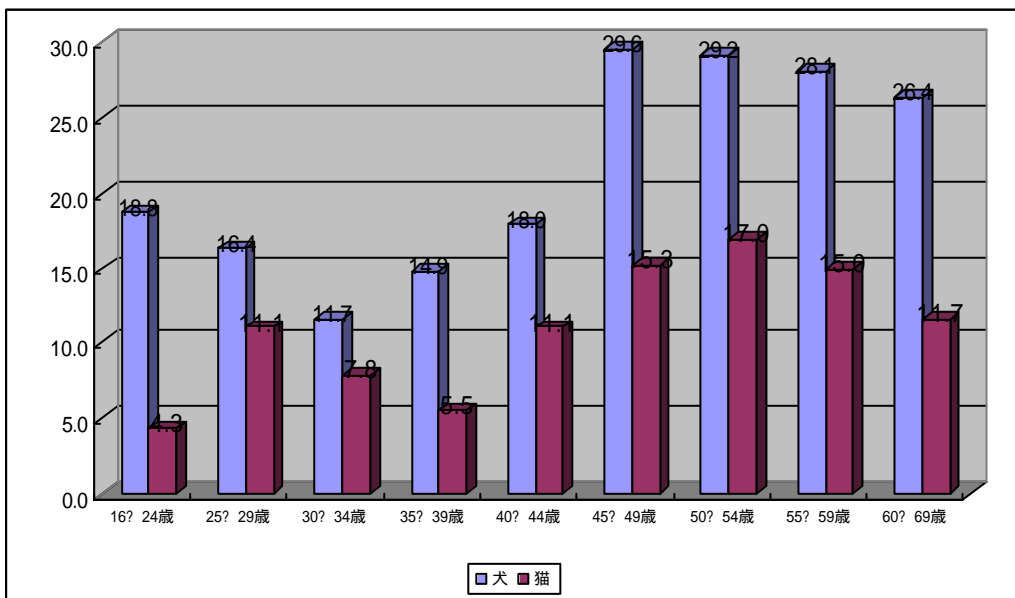
図 5 犬・猫の飼育数の年推移（単位：千頭）



出所：ペットフード工業会 <http://www.jppfma.org/>。

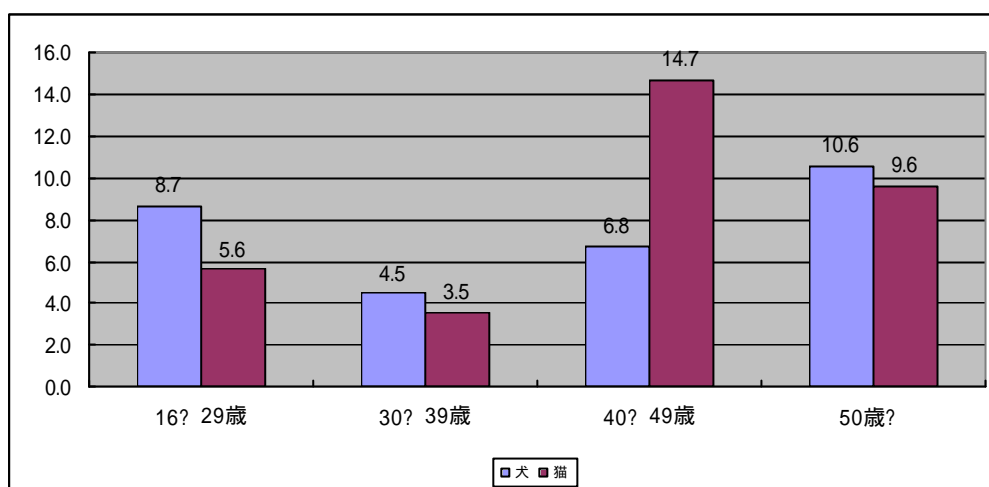
図 6 及び 7 は年代別飼育の状況である。

図 6 犬猫の2人以上世帯年代別飼育率(単位：%、2004年)



出所：日本ペットフード工業会 <http://www.jppfma.org/>。

図 7 犬猫の単身世帯年代別飼育率(単位：%、2004 年)



出所：日本ペットフード工業会 <http://www.jppfma.org/>

2人以上世帯では45? 49歳の年代が29.6%で最高で、50? 54歳が29.2%と続いている。45歳以上の年代になると、45歳未満の世代が20%以下であるのに対して10ポイント以上世帯飼育率が増昇して、年齢とともに飼育率は下降するが60? 69歳でも26.4%と高い飼育率である。若い年代は犬の飼育が大勢であるが、45歳以上になると猫飼育は犬の半分程度である。

単身世帯では40? 49歳で猫の飼育率が14.7%に達しているのが特徴である。50歳以上の年代では、犬猫10%前後でほぼ同一な飼育率である。

単身世帯のペット飼育率は10年前に比べ倍増しているそうである。2004年と2003年と比べても犬は6.2%から8.2%、猫は4.9%から7.9%と高い伸び率である。

この理由は、一人暮らしの世帯が増えてきたと同時にマンション・アパートが「ペット可」の物件が増えてきたこと、一人暮らしの人達が犬猫を生活のパートナーとしていることとペットフード工業会は分析している。

ペットフード工業会の全国犬猫飼育率調査(2004年)<sup>11)</sup>による図 5の飼育年推移は犬猫の飼育数が確実に増加し2004年では過去最高となった。

ペットが生活のパートナーとして大きな役割を果たしている世相を反映している数字である。

また、この10年において質的变化が見られる。特に飼育犬について純粋種が増加し2000年に41%が2004年には69%(猫純粋種は13%で余り変化なし)にも達している。犬の飼育場所に関して2003年に初めて室内飼育が46.2%になり、屋外飼育44.2%をうわまわった。サイズも10kg以下の小型犬が増加している。

犬が愛玩動物からコンパニオンアニマルへと質的变化をし「家族の一人」との意識変化が社会で容認されていることであろう。

## ）飼育にかかわる費用

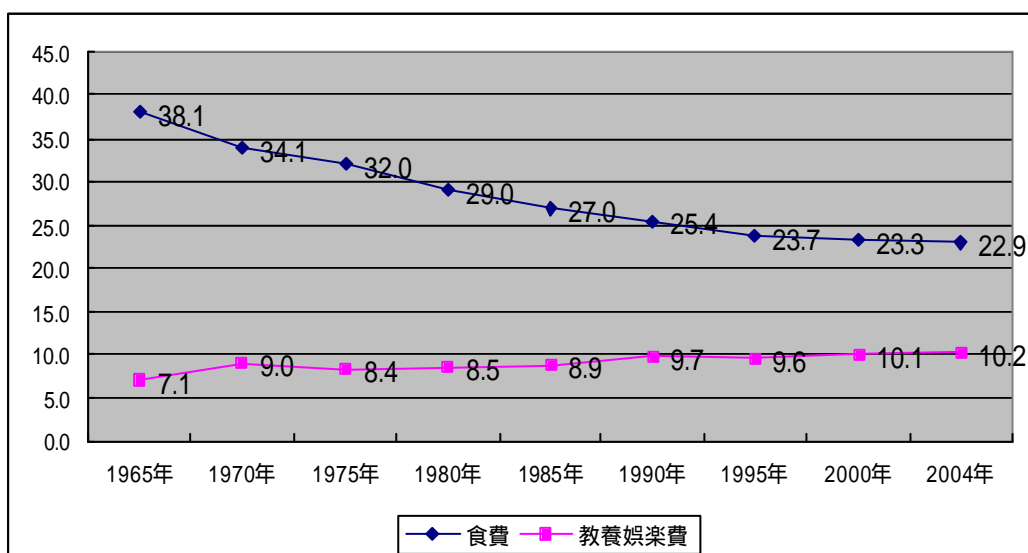
犬猫の飼育のための餌は人類が飼育始めた時代より人間の余り食物であったので、費用としての認識は薄かったと思われる。ペットフードが餌の主流になったのはつい最近のことである。犬猫に衣服を着せたり、トリミング（犬猫の美容散髪）したり、動物病院に行く機会が増えたりして犬猫を飼育するにはそれなりの費用がかかる。

飼育費用については正確で十分な資料は見当たらない。国の統計資料をみると、「家計調査報告」がある。「ペット関連費用」は大分類「教養娯楽」の内中分類で「教養娯楽用耐久財」「教養娯楽用品」「書籍・他の印刷物」「教養娯楽サービス」とに分けられていて、ペット関連費は「教養娯楽用品」の中に含まれている。しかも「他の愛がん動物・同用品」として独立調査項目になったのは1990年からである。「ペットフード」の調査も1995年からで最近の15年間分程度である。この調査では調査世帯の幾世帯が犬猫を飼育しているかは不明である。「他の愛がん動物・同用品」の項目では犬猫に限らず他のペット費用も含む。しかも調査世帯の平均としての統計資料である。

「全国消費実態調査報告」では、5年ごとの調査である。「全国消費実態調査報告」では1969年より「愛がん動物・同用品」の項目がある。1999年からは「ペットフード」「他の愛がん動物・同用品」「獣医代」と、3項目に分割調査されている。幸いにこの調査では、ペット関連費の支出している世帯の割合が判明する。1969年27.5%1979年28.3%1989年29.1%で1999年は30.9%である。

民間では旭化成が1999年に「住まいとペットに関するアンケート」調査がある。12)

図 1 教養娯楽費と食費の消費支出に対する年推移割合（単位：％）



出所：2000年まで国民生活白書 2004年版 p.197、2004年は「家計調査報告」第10表 2004年。

エンゲル係数は図 1 に示すように高度経済成長時代が終息した1970年代前半まで急

速に低下し 1975 年に 32.0%となった。1973 年、1978 年のオイルショックにもかかわらずエンゲル係数は低下し続けてバブル崩壊 1990 年に 25.4%になり、最近 10 年間は 23%代までに低下した。

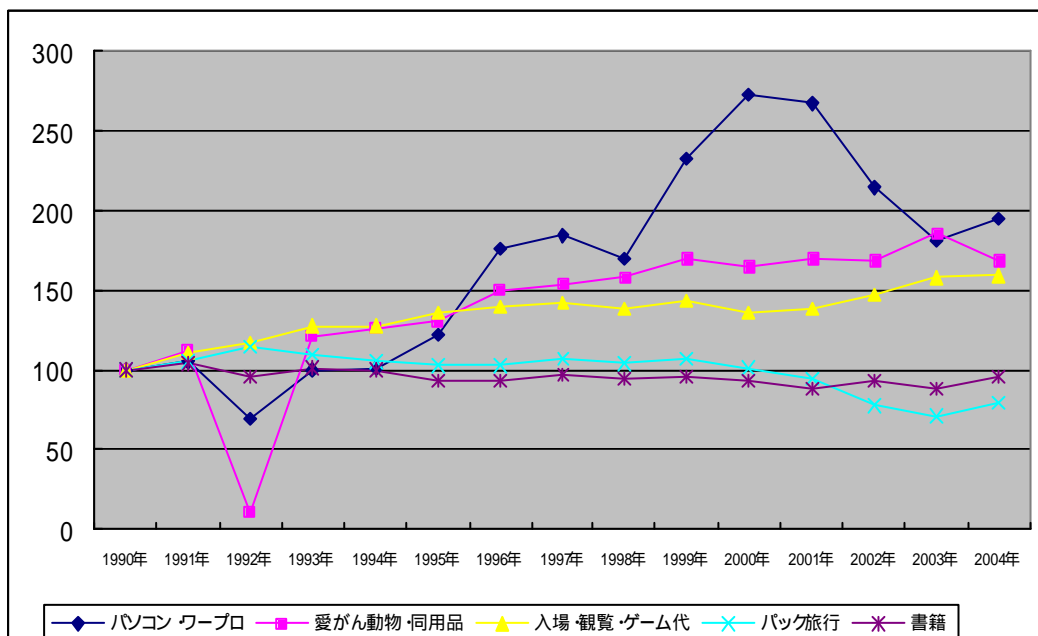
教養娯楽費はバブル崩壊の 1990 年以前は 8%から 9%未満であったが 1990 年代は 9%後半まで増加し、2000 年からは 10%までに増加して食費の約半分の金額を教養娯楽費に支出するようになった。これはパソコン・バック旅行・ゲーム代等への支出が急増したからであろうが、消費支出に占める割合で食費は年々小さくなり、教養娯楽費は大きくなってきた。

図 2 でいくつかの品目の年推移を示す。1990 年を 100 としてそれぞれの品目の消費者物価指数で調整した値による支出の推移である。

「パソコン・ワープロ」の上昇が目立つ。次にペット関連費の「愛がん動物・同用品」は 1990 年に対して 2000 年代は 70? 85%の増加である。ゲーム代・スポーツ施設使用料等「入場・観覧・ゲーム代」も増加傾向である。それに反して「書籍」等の支出は低下傾向である。13)

前に述べたようにこの資料ではペット飼育の費用が年々増加していることは事実である。しかしこの資料はあくまでも、すべてのペット関連費支出の平均である。

図 2 教養娯楽費の品目別年推移 (1990 年 = 100 としての増減割合)



出所：総務省「家計調査報告」1990年? 2001年までは第 17 表、2002 年? 2004 年は第 10 表より作成。

図 3 総務省「全国消費実態調査報告」の資料より物価調整を行った支出額 (1995 年基準実質値) で、ペット関連費支出している世帯の 1 ヶ月当たり平均支出額の年推移である。

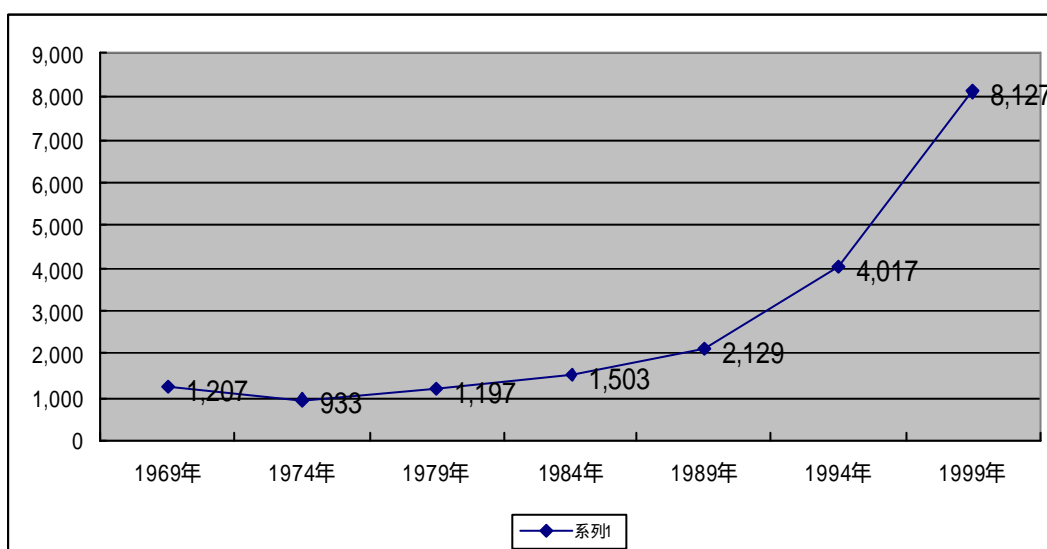


1969年に1世帯当り支出額は1,207円で1989年までは変化は余り見られなかったが1989年に2,129円と増加し、1990年代バブル崩壊にもかかわらず1994年には4,017円となり、2倍の支出となり、1999年には8,127円と5年で2倍となり1969年から1999年の30年間で6.7倍にも増加した。この資料からは急な増加傾向は最近15年間であることを示している。14)

表 1は旭化成が1999年にアンケート調査した報告である。総務省の「家計調査報告」によるとペット関連費は1999年14,579円であり、2004年14,045円でこの最近5年間あまり変化はない。したがってこの調査結果は現在でも当てはまると考えられる。15)

表 2は乱暴であるがペット飼育家庭の月飼育費は約4,050円と推定計算された。「全国消費実態調査報告」によりペット飼育世帯を30%として2004年「家計調査報告」のペット関連費年14,045円、総世帯数4,864万世帯と仮定してペット飼育家庭の飼育費用を推定計算したものである。

図 3 ペット関連費支出世帯の1ヶ月当り平均支出額の年推移(単位：円、1995年基準)



出所：旭化成「ペットと暮らす家」<http://www.asahi-kasei.co.jp/>。

表 1 旭化成アンケート調査の月犬猫の飼育費 (単位：円、1999年調べ)

種類	飼育年数	餌代	病院代	月合計
犬	12年	4,929	3,009	7,938
猫	17年	3,971	2,601	6,572

出所：旭化成「住まいとペットに関するアンケート」<http://www.asahi-kasei.co.jp/>。

表 2 家計調査報告より推定飼育世帯の飼育費（2004年）

全世帯数	推定飼育世帯数(30%)	平均月飼育代	年飼育費合計	飼育世帯の月飼育費
4,864万世帯	1,457.9万世帯	1,215円	590,976百万円	4,053円

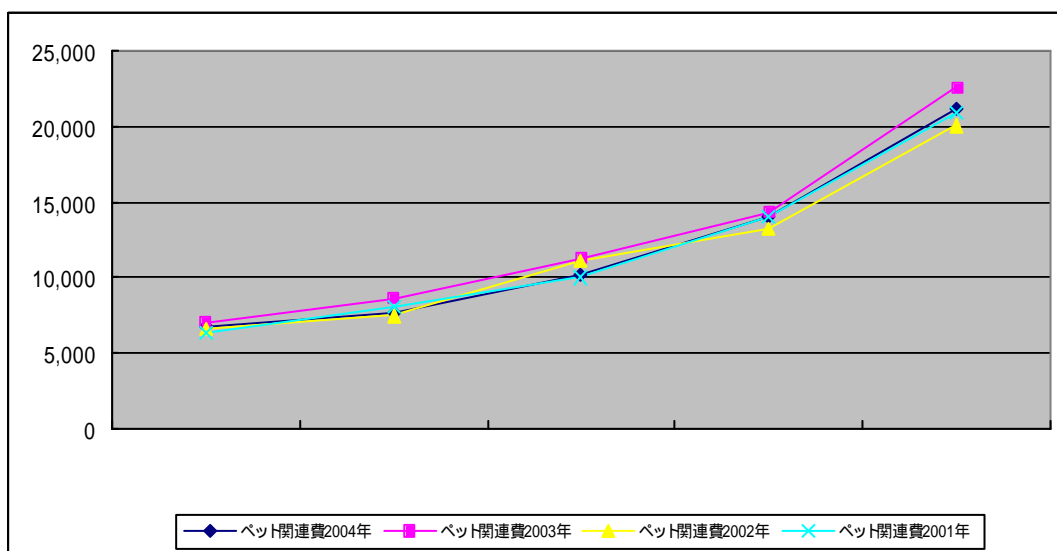
出所：総務省「家計調査報告」2004年より作成。

以上のように飼育世帯での飼育費は明確に明らかには出来ない。推定として、犬の飼育費は月 8,000 円前後、猫は月 7,000 円前後支出している模様である。

また、犬は大・中型犬と小型犬での費用は大・中型犬が食事代は高いが、総合計で比較すると小型犬の方が若干高いようである。それはトリミング代などが大型犬より多く支出していると思われる。16)

図 4 は総務省の「家計調査報告」による 2001 年より 2004 年の年間収入の 5 分位階級別にペット関連費の状況である。各年ともペット関連費は最低第 1 分位階級が 7,000 円前後にたいして最高の第 5 分位階級は 21,000 円前後で 3 倍ものペット関連費を支出している。消費支出に対するペット関連費の割合も 2004 年において第 1 分位階級は 0.39% であるが第 2 分位階級が最低で 0.31% であり階層が高くなるほど消費支出に対するペット関連費の割合は高くなり最高位の第 5 分位階級は 0.42% になっている。収入が高いほどペット関連費の額は高いだけでなく消費支出にたいする割合も高い。しかし図 2 に示すごとくバブル崩壊による景気後退にもかかわらずペット関連費は増加している。これは所得が高くなればペット関連費が増加するというだけでなく、それ以外の要因の影響も大きいものであるということがうかがわれる。

図 4 年間収入 5 分位階級別年間ペット関連費用（単位：円）



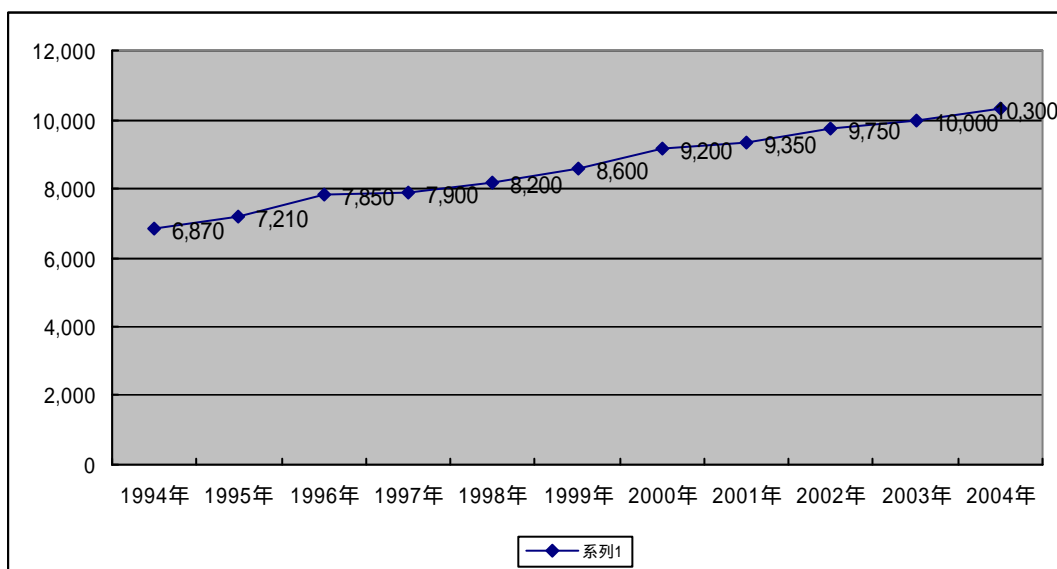
出所：総務省「家計調査報告」2001,2002,2003,2004年第 10 表より作成。

「家計調査報告」によると、2000年代に入り増加傾向は留まっている。しかしペット業界では、今後の「高齢少子化」が進む中で特に犬猫の飼育家庭は増加し、ペットフード等は価格競争で価格低下傾向がすすむと思われるが、総飼育金額は増加するであろうと期待している。

## ）ペット産業の市場規模

図 1 は矢野経済研究所によるペット関連の小売ベースの市場規模である。

図 1 ペット関連総市場（小売ベース）規模推定（単位：億円）



出所：矢野経済研究所、2004年は見込み（医療、葬儀葬祭は含まず）。

1996年から1998年の間停滞傾向が見られるが、全体としては増加傾向が続いている。1994年に比べて2004年の市場規模は5割増で1兆円を超えていると推定している。環境庁の調査によると市場構成比（図 2）の高いペットフード・ペット用品は量的には増加しているが、競争等による価格の下落で金額としては下落している。生体・サービス（トリミング、ペットホテル、ペットの調教・訓練、ペット関連の専門学校、獣医費等）関連の市場が伸びていて全体の増加に貢献しているといわれている。17)

ペット関連市場の構成比は図 2 の通りペットフードが55.4%、ペット用品が25.7%を占め全体の84%で市場の柱である。最近の市場傾向ではペットフード等は伸び悩みであるのに反してペットそのもの生体の市場(14.5%)の増加とサービス要素のある市場(4.5%)が有望とされている。

日本アニマル倶楽部によると、ペット関連産業は1兆2千億に達しているとしている。しかもペット関連産業は一時的なブームでなく今後とも成長・安定業界で不況に左右されづらいとしている。18)

表 1 は日本マニアル倶楽部による最近のペット関連市場規模である。

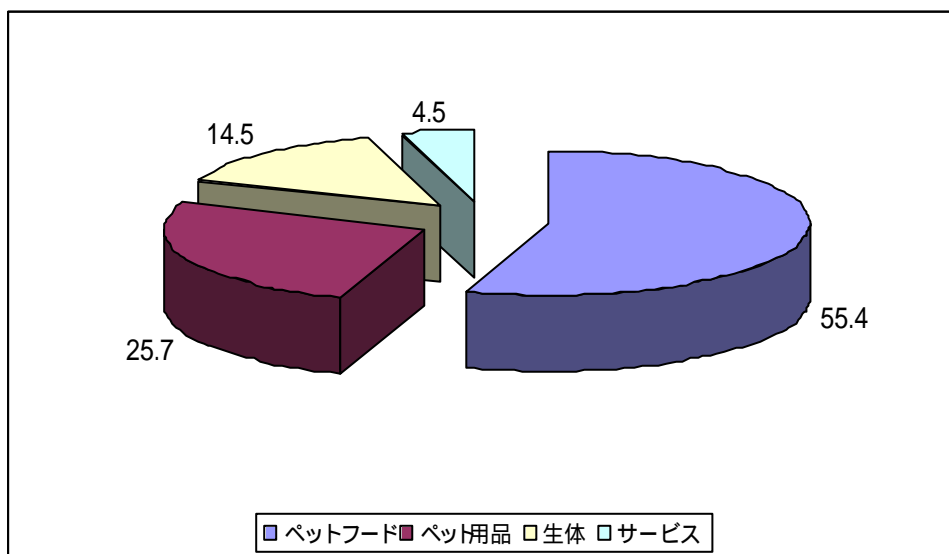
表 1 ペット関連市場規模（単位：億円）

ペットフード	5,973	
医療	5,031	(合計1兆2004億円)
生体販売	1,000	
国内のペット飼育数	2,171万世帯	(合計3,900万頭)
ペット保険加入数	約13万? 14万頭	

出所：日本アニマル倶楽部 <http://www2.osk.3web.ne.jp/>。

このようにペット関連産業の市場規模は明確でない。だが年々市場が拡大していることは否定できないであろう。ここでは犬猫のペットを中心とした流通、関連業者、ペットフード等現在の状況を明らかにし今後の市場の展開を探っていききたい。

図 2 ペット関連総市場の構成比 2000 年（単位：％）



出所：環境省「ペット産業の市場規模」 <http://www.env.go.jp/>。

表 2 は野生社発行の「ペット産業年鑑」2002/2003 年版により全国の県別に小売・卸売・サービス・養殖繁殖・製造業の業態別業者数である。

企業数は全国 32,742 企業で東京は 11.1%で東京首都圏埼玉、千葉、神奈川 1 都 3 県で 26.6%、大阪圏が 12.5%、名古屋圏は 9.8%、北海道 4.2%の合計で 53%を占めている。大都市に企業数は集中している。おそらく売上も企業数に順じているものと思われる。

2001 年の「ペット産業年鑑」によると全国の犬猫取り扱い業者は小売・卸・繁殖業者合

わせて7,249企業とされている。表 2より2002年を推定すると8,300企業ほどである。確実に業者が増えていることはペット産業の市場が拡大していると考えて間違いはないだろう。

しかし市場規模の成長以上に企業が増えれば価格競争が激しくなり市場全体規模が成長するとしても個々企業が右肩上がりの恩恵を受けるとは限らない。他産業と同じく、お客様のニーズを把握しお客様の満足度の向上に成功した企業のみが生き残るであろう。

表 3は千葉県のペット産業の状況である。企業数は1,481有り全国企業数の4.5%である。犬猫関連の業者の中でサービス関連の美容・診療・ペットホテル等の割合が大きい。

表 2 県別のペット産業業態別企業・営業内容別数

都道府県	小売			卸売			サービス			繁殖	製造	企業数
	企業数	生体	用品	企業数	生体	用品	企業数	美容	診療	企業数	企業数	合計
北海道	506	274	363	83	20	51	702	317	313	74	21	1,386
青森	125	58	72	15	7	9	97	41	44	21	2	260
岩手	113	44	92	10	3	3	105	27	53	12	5	245
宮崎	260	101	192	55	6	38	239	92	118	31	13	598
秋田	109	47	80	9	1	3	79	36	35	18	2	217
山形	146	55	103	15	8	5	115	53	50	28	2	306
福島	235	75	117	21	10	6	177	69	99	26	6	465
茨城県	312	131	234	38	4	12	309	149	121	54	12	725
栃木	232	117	173	37	19	10	266	123	117	49	11	595
群馬	245	119	181	30	15	16	240	100	108	48	7	570
埼玉	619	329	451	114	22	52	784	380	324	110	43	1,670
千葉	552	270	407	88	17	36	706	355	296	100	35	1,481
東京	1,329	573	940	352	41	203	1,611	749	745	87	264	3,643
神奈川	754	386	530	93	20	40	937	474	447	95	45	1,924
山梨	96	44	71	18	1	6	105	54	44	37	3	259
長野	245	95	166	33	8	13	211	94	102	50	6	545
新潟	303	70	163	79	8	16	207	103	101	129	20	738
富山	129	46	87	21	1	5	79	42	26	20	8	257
石川	111	57	86	12	3	8	122	64	40	28	4	277
福井	75	24	51	10	1	3	62	29	26	16	1	164
岐阜	231	101	157	26	4	7	206	109	65	48	15	526
静岡	477	222	326	79	19	31	495	253	183	92	42	1,185
愛知	740	344	498	217	39	93	814	426	327	185	68	2,024
三重	191	103	138	12	7	3	233	117	104	48	8	492
滋賀	102	45	86	5	1	3	123	60	50	16	4	250
京都	287	137	220	31	9	13	327	167	129	43	17	705
大阪	1,029	447	759	215	22	122	1,164	649	410	102	167	2,677
兵庫	544	268	375	80	10	41	669	315	317	85	46	1,424
奈良	132	67	91	41	3	5	168	79	68	55	16	412
和歌山	135	79	101	12	3	5	128	77	37	26	9	310
鳥取	64	22	39	11	1	1	52	19	21	17	5	149
島根	57	26	31	9	2	3	49	25	22	24	2	141
岡山	204	104	142	36	11	20	203	91	78	55	13	511
広島	341	151	236	72	12	31	305	168	123	65	16	799
山口	139	81	93	18	7	6	145	83	47	30	4	336
徳島	91	37	59	14	4	6	71	23	34	16	3	195
香川	108	63	76	23	7	10	110	52	40	23	4	268
愛媛	155	79	113	22	2	11	147	69	60	41	9	374
高知	72	29	50	16	5	8	69	25	36	12	3	172
福岡	519	286	380	112	19	49	574	318	195	96	34	1,335
佐賀	96	36	57	16	8	6	57	31	20	22	3	194
長崎	133	57	95	9	5	7	139	71	55	22	4	307
熊本	174	77	119	24	9	6	197	101	86	68	12	475
大分	119	52	88	17	5	5	121	58	55	18	6	281
宮崎	123	61	84	13	6	7	114	60	38	23	9	282
鹿児島	154	57	99	23	7	8	106	49	55	32	5	320
沖縄	125	50	80	25	5	16	101	57	34	17	5	273
合計	13,038	5,996	9,151	2,311	447	1,058	14,040	6,903	5,898	2,314	1,039	32,742

出所：「ペット産業年鑑」2002/2003 版野生社 2002 年 8 月より作成。

表 3 千葉県の実業内容別

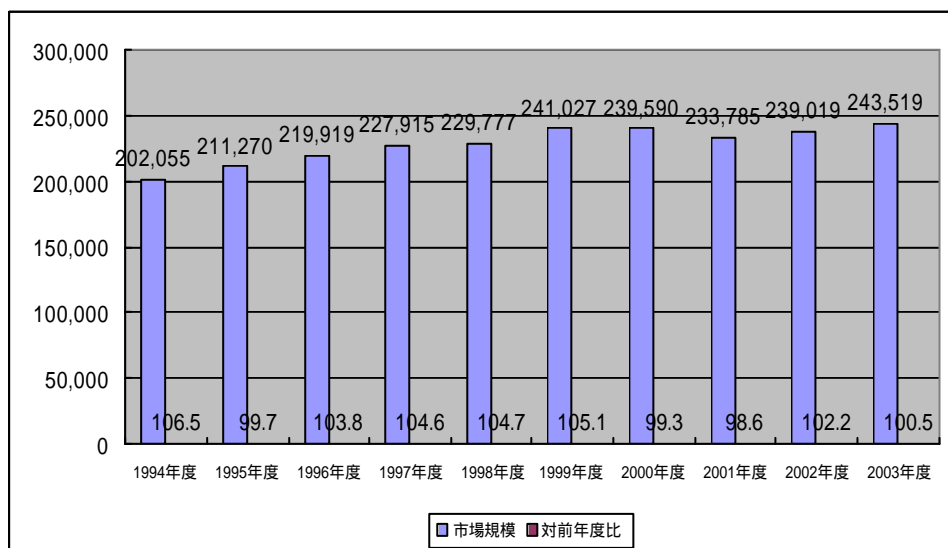
項目	小売		御売		サービス	養殖繁殖		製造		
	生体	用品	生体	用品						
犬猫	270	407	17	36	学校	12	犬猫	79	犬猫用品	16
金魚	132	202	15	23	美容	355	金魚	5	観賞魚用品	10
錦鯉	57	152	15	24	犬訓練	44	錦鯉	9	鳥用品	6
熱帯魚	117	193	15	22	診療	296	熱帯魚	3	小動物用品	0
海水魚	41	126	8	19	葬祭	33	小鳥	2	昆虫用品	1
小鳥	144	219	11	19	ホテル	179	その他	7	その他	4
小動物	119	185	16	23	シッター	6				
昆虫	28	39	9	7	パーク他	2				
爬虫類	34	109	11	13	リース等	5				
両生類	17	32	7	2						
企業数	552		88			706		100		35

出所：「ペット産業年鑑」2002/2003 版野生社 2002 年 8 月 p.131。

市場の柱であるペットフードを考えてみることにする。

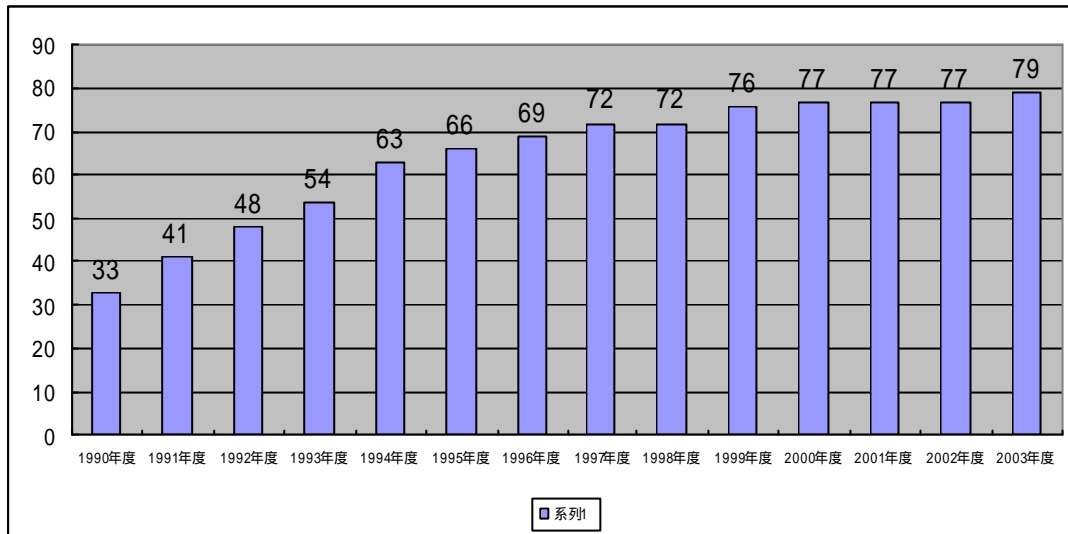
ペットフードとは、ペットに与える目的で加工された食物と定義されている。ペットフードはイギリスで 1860 年始めて犬用の食物として事業化された。キャットフードは 1950 年に発売が始まっている。日本では 1945 年敗戦によりアメリカ軍の軍用犬のために輸入されたのが初めてである。国産は 1959 年に協同飼料が「ビタワン」を製造販売した。輸入品「ゲインズ」・「ケンエル」が続いて販売が始まっている。1971 年での普及率は 5%と推定されている。キャットフードは 1970 年に日本ペットフードが販売を開始した。当時ペットフードは高価で家庭では利用できるものではなかった。19)

図 3 ペットフードの市場規模(出荷総額)と前年度比の年推移(単位:百万円、単位:%)



出所：農林水産省「2003 年度ペットフード産業実態調査結果」参考 1 より作成。

図 4 ペットフードの流通量の年推移（単位：万トン）



出所：農林水産省「2003年度ペットフード産業実態調査結果」参考2より作成

図 3 によると 2003 年ペットフード出荷総額 243,519 百万円(小売額ベース推定 550,000 百万円)で緩やかな増加傾向で 1994 年と比較して 20.5%の伸びである。流通量(図 4)をみると 2003 年は 1994 年に比較して 25.4%で金額ベースより 5%増えている。流通量は 1994 年に 60 万トンを超え 1997 年に 70 万トンを超えて 2003 年 79 万トンに達している。2003 年 79 万トンは 1990 年 33 万トンに比べて 2.4 倍で急激な増加を呈している。1990 年はバブル経済がはじけ始めた年であるがペットフードの流通量はまったく影響なく増加し 1999 年頃からは伸びが停滞している。出荷総額と流通量を比べるとペットフードの価格は僅かながら下落傾向がみられる。

農林水産省 2003 年の「ペットフード産業実態調査結果」によると、2003 年のペットフード流通量 79 万トンは対前年比(2002 年と 2003 年共に回答があった企業の数値により算出) 100.3%である。増加の要因は犬猫の飼育数が増加したことが貢献している。輸入量は全体に対して 43%(国内生産の流通量 57%)で前年と変化はない。オーストラリア(36.4%)、アメリカ(34.0%)、タイ(20.0%)からの輸入で 90%に達している。

国内生産品の流通量は前年比 102.%で 3 年連続前年を上回り、輸入品は減少傾向である。トン当たり単価は国内生産品 273 千円に対し、輸入品は 335 千円である。要因は輸入品が単価の高いウエットフード(水分 75%程度)・ジャーキー等が多いからと考えられる。犬用のペットフードでは副食であるビスケット・ガム等が前年比 113.5%と消費が拡大している。猫用ペットフードは前年比 99.5%と微減となっている。20)

最近のペットフード業界は大きな変化が始まっている模様である。毎日新聞 2002 年 11 月 3 日付けの花王の女性(20? 60 代)にたいして「飼主と愛犬の接し方」調査によると、



「一緒に布団で寝る」が4割、「生活の愚痴などを聞いてもらう」が3割いた。家族での優先順位では「愛犬が一番」が5.6%、「おやつをよく与え」が5割、「人間の食べ物をついで与えてしまう」が3割である。結果として、可愛がり過ぎで肥満傾向の犬が増えていく。栄養豊富と衛生的環境により、ペットが長生きをしていて7歳以上の犬が4割を超えていると言われている。犬の7歳は人間では60歳以上でこのように「お年寄り」の犬が増えている。ペットフードも「健康」を売りにし、ペットの健康に腐心している飼主の心を掴む商品が発売されている。例えば2005年9月27日付け読売新聞によると、花王は11月から食用油「エコナ」の技術を使った脂肪が付きにくいドッグフードを通信販売する。価格は1キロ1,554円で一般的な品の3倍以上である。このように「高級化」「多様化」「簡便化」「健康指向」へとペットフードの変化がみられる。飼主がホームセンター等で価格の安い商品を求める場合と、高級化と健康指向で高い商品を求める場合の二極分化が進んでいきつつある。猫用のキャットフードも同じような傾向である。

ペット市場で約1/4の構成比とされているペット用品については、正確な売上額の資料が手に入らない。小売額ベース推定2,500億円程度とされている。

犬用品は次のような品である。

- \*犬用おもちゃ・玩具
- \*首輪・胴輪・リード
- \*食器関連品
- \*訓練・しつけ用品
- \*トリミング用品
- \*シャンプー類
- \*ケア用品
- \*犬用インテリア
- \*衣類・くつ・アクセサリー
- \*ほ乳器・マッサージ器・虫よけ首輪等。

猫用品はつぎのような品である。

- \*猫用グッズ（猫砂・つめとぎ・キャリー・食器等）
- \*ケア用品
- \*シャンプー
- \*スキンケア
- \*しつけ用品。

朝日新聞からペット用品の記事を拾うと2005年9月4日付けに、豊田自動織機の関連タクシー会社大興タクシー（愛知県刈谷市）が「仔犬のトイレしつけ機」（鉄製35,000円、木製50,000円程度）を発売している。営業のターゲットをお年寄りのペットを飼っている人々とし動物病院、美容院の行き来へのサービスに力を注いでいる。「しつけ機」の開発はお客様確保のための一環である。2005年9月15日付けでは、シャープがペットを飼う家

庭向けの空気清浄機を発売した。ペットから出る臭いを脱臭するもので、売りは脱臭スピードが従来品より 10 倍の速度があるとのこと。価格は約 40,000 円である。2005 年 10 月 15 日付けで、自動車メーカーのホンダが小型ワゴン「WOW（ワウ）コンセプト」の助手席前に小型犬を乗せる籠を取り付け、中型犬用の籠も床下から引き出せるように設置した。床は木製で、人間の座席は毛がからみにくい素材を使用、籠は通気性のよいメッシュ加工にしてある。2005 年 10 月 28 日付けによると、テルコムという 4 人のベンチャー企業が高齢化により呼吸器系を患うペット用に「小動物用 ICU(集中治療室)」を製造し、月額 15,000 円で貸し出して需要を開発している。

また、日本経済新聞 2005 年 10 月 15 日付けでペットの世話を IT 利用の器具を紹介している。AOS テクノロジーズ社はカメラ付遠距離給餌器「iSeePet」を発売した。共働世帯、単身者を対象として価格 60,000 円。松下電工は携帯電話、パソコンのメール機能を利用してセンサーで感知して自動撮影したペットを外出先で見ることが可能な「ペポットカメラ」価格 14,000 円を発売し、キャリア女性に人気があるとのこと。セコムは GSP(全地球測位システム)「ココセコム」をペットに利用した商品を販売している。ペット専用 GSP 端末(重量約 48g)を首輪などに付け居場所確認が出来る。加入料金 5,250 円で月額基本料金 840 円とのこと。関西国際空港の「関西ペットホテルプロムナード」で 40 の個室で「ペポットカメラ」を設置し海外旅行ペット飼育者へのサービスをしている。

読売新聞 2005 年 12 月 3 日付けでペットを飼えるマンション事情の記事がある。それによる不動産経済研究所(東京)が 6 月に発表した「首都圏におけるペット飼育可能なマンションの普及率調査」によると、2004 年の新築分譲マンションのうち、「ペット可マンション」は 55.8%であった。1998 年の調査開始以降初めて半数を超えた。2000 年のペット可マンションは 9.0%に過ぎなかったがこの 4 年間で急増した。資料はないがマンション住民同士でペットが嫌いな住民とのトラブルも増加していると思われる。鳴き声や排泄物の臭いなどトラブル原因の排除など「責任ある飼主」であることが要求されるであろう。

このようにペット関連用品は各社既存の技術、システムをペット用に活用し今後ますます多様化した商品を開発し市場の拡大を模索しているようである。

生体市場の規模の正確な資料もまた見当たらない。推定小売ベース売上 1,000? 1,400 億円であろう。

2005 年 1 月時点で犬猫生体取り扱い小売業は 5,859 で前年比 2.8%、養殖・繁殖業者 2,433 で前年比 0.9%である。その他に個人の繁殖者もかなりの数いると思われる。このように生体扱い業者は微減であるが競争が激しくなって淘汰の結果であろう。

推定年間販売犬の頭数は約 120 万頭とする調査がある。犬の飼育頭数や平均寿命から推定計算すると、年間 100? 120 万頭が死亡し、同程度の犬が新たに飼われていると推定している。<sup>21)</sup>

表 4 はジャパンケンネルクラブに登録された年別犬種上位 3 位までのものである。登録されている犬種は小型犬が主流である。1999 年大型犬ゴールド・レトリバーが 3 位で

あったが 2004 年には大型犬ラブラドル・レトリバーの 9 位が大型犬のトップである。

表 4 最近のジャパンケンネルクラブの登録犬上位 3 位

	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年
1位	ダックス	ダックス	ダックス	ダックス	ダックス	ダックス
2位	シーズー	シーズー	チワワ	チワワ	チワワ	チワワ
3位	ゴールデン	チワワ	シーズー	コーギー	プードル	プードル

出所：ジエイネット.コム(株)<http://www.pecohouse.com/>

犬猫の生体価格は雄か雌か・体躯・毛色・親が誰か（血統書）・生誕してからの月数・生まれる平均数・人気等多様な要素で決まっていく。表 5 に店頭価格・通信販売の価格の例を示す。個体により価格は大きな差額がある。

表 5 ダックス・チワワ・プードルの価格例（単位：円）

ミニチュアダックスフント	60,000	?	214,000
チワワ	50,000	?	159,000
トイ・プードル	83,000	?	380,000

出所：テイ エム クレスト <http://www.2.tokai.or.jp>

頭数ベースでみた 2001 年の流通量が多い順は以下の通りである。

- 「小売店」から「ペット飼育者」年間約 42,000 頭
- 「生産者」から「ペット飼育者」年間約 34,800 頭
- 「生産者」から「小売店」年間約 25,300 頭
- 「生産者」から「せり市」年間約 22,300 頭
- 「せり市」から「小売店」年間約 19,500 頭

外国からの輸入は年間約 800 頭で「小売店」530 頭、「卸業者」が 270 頭である。一方輸出は年間約 400 頭で「生産者」から 270 頭、「卸業者」から 130 頭とみられている。

2001 年の推定年間総生産量は約 97,800 頭であるが、生産者から流通に回ったのは約 88,900 頭で 1 割弱が病死している。また、ペット飼育者にわたったのは約 77,000 頭で 87%（77,000/88,000=0.875）である。流通過程での病死や、流通業者が繁殖用として確保されたものである。22)

最後はペットサービス関連市場である。医療費を中心としてホテル、美容院等の状況をみしてみる。

正確な資料はないが表 - 1 によると医療費約 5,031 億円、ペット医療保険加入数は約 13 万? 14 万頭と言われている。

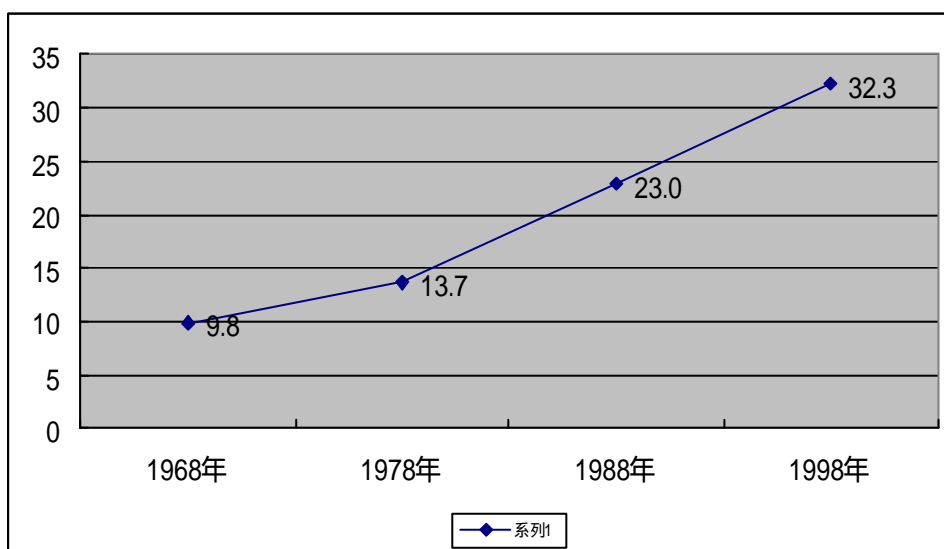
日本の最初の獣医学書「馬医草紙」は鎌倉時代に書かれた、江戸時代「生類憐れみの令」の時代には「犬医師」があり、江戸時代後期には「猫医」も存在したと言われている。近代獣医療は軍馬・鶏・豚・牛家畜が対象であり「犬猫対象獣医」の一般化はここ 40 年前からと言われている。(23)

農林水産省「家畜衛生統計」による獣医師の内訳を図 5 にしめす。犬猫対象の個人診療施設は 1968 年 9.8%であったのが、1998 年には 32.3%となり現在は 1/3 の施設がペット対象の施設である。

動物病院の状況を総務省「サービス業基本調査報告」1999 年によると表 6 の通りである。1999 年の施設は 7,631 である。1989 年の 5,635 に比して 1.35 倍と増加している。

図 5・表 6 にあらわれているように近年ペット対象医療獣医・施設が増加している。当然医療費総額は同じ様に増加の一途をたどっていると思われる。

図 5 獣医全施設に対してペット医療の診療施設の年推移の割合（単位：％）



出所：農林水産省「家畜衛生統計」1998 年。

表 6 獣医業の事業所数の年推移

1989年	1994年	1999年
5,635	6,801	7,681

出所：総務省「サービス業基本調査報告」1999 年。

朝日新聞 2005 年 12 月 2 日付けに第 7 回日本臨床獣医学フォーラム年次大会 2005 公開シンポジウム「すこやかに、共に生きる - 伴侶動物との絆が生活を変える」(主催：日本臨床獣医学フォーラム、協賛：花王株式会社)が、飼主と動物病院の新しいあり方について考える会が開かれた記事がある。それによる動物病院の新しい使命を次のように述べてい

る。

「家庭で飼育される動物は、今や単なるペットではなく、家族の一員として生活する伴侶動物なのです。(中略)こうした伴侶動物と人間との精神面までを含めた絆を「ヒューマンアニマルボンド」とよびます。いろいろの研究から、伴侶動物との生活は、孤独な老人に笑いやユーモアを引き出し、人間同士の交流を深めるなどの効果があることが分かってきました。子供の精神的発育にも重要な意義があると言われてしています。(中略)動物病院の仕事は、伴侶動物の幸せで健康な一生を保障することです。(中略)病気を治すだけでなく、動物の「ウエルネス」すなわち「よい状態を維持する」ことが望まれます。(中略)「ゆりかご前からお別れの後まで」フルサービスのケアです。動物が家族の一員になる前から動物病院に相談に来ていただきたいのです。また幼年期、成年期、老年期とライフステージごとに、動物のウエルネスに必要な健康管理や栄養管理のプログラムが用意されています。(中略)伴侶動物との幸せな生活は平和な社会を作ります。そのため伴侶動物の小さな異常を見逃さずに QOL (生命の質) を良くし、美しさを保つのは皆さんの役割だし、動物病院の責任なのです。」<sup>24)</sup>

先に述べたように飼われている犬の 4 割を 7 歳 (人間では約 60 歳) 以上が占め、犬世界でも「高齢化社会」の到来である。成年期には栄養過多で肥満予防、栄養改善、歯石・寄生虫予防など、老齢期には内臓疾患、骨、関節、ガンなどの治療が増えている。病んだペットに対して飼主は家族の一員として治療に専念し、金銭を厭わない傾向はますます増加していると思われる。

直接の医療ではないが、犬用専用のジムがある。水槽にルームランナーを設置して水中運動、運動後はジャグジ - 風呂でのマッサージなど 1 回約 50 分で 6,800 円である。

椿山荘 (東京都文京区) はペットの 1 日特別検診付きの宿泊プランを売り出そうとしている。2 泊 7 万円で動物病院への送迎付で、特別検診は約 50,000 円である。

日帰り温泉施設「大江戸温泉物語」では犬専用保養施設を開場している。平日で平均 20 組、週末は 60 組が訪れる。「水泳療法」は人気があるそうだ。<sup>25)</sup>

医療保険も病気や死亡に備える「ペット保険」扱う会社も増加している。

日本アニマル倶楽部(株)の販売している商品の 1 例を表 7 にしめす。各社いろいろな商品を開発販売しているようである。

表 7 日本アニマル倶楽部(株)の小型犬用保険の内容

小型犬 掛金(月払 2,300円) (年払 25,000円)		年間最高保証額
保障内容		
通院治療費	1日当り 5,000円まで全額保障 (年間累計 60日まで何度でも)	300,000円
入院治療費	1日当り 10,000円まで全額保障 (年間累計30日まで何度でも)	300,000円
ガン給付金	1診断に付 50,000円えお支給 (年1回まで)	50,000円
手術給付金	1回当り 30,000円を給付 (年2回まで)	60,000円
死亡給付金	50,000円を給付	50,000円
後遺症障害給付金	50,000円を給付 (ケガが原因の場合のみ)	50,000円
新規加入可能年齢	120日? 13歳未満	計810,000円

出所：日本アニマル倶楽部 <http://www2.osk.3web.ne.jp/>。

最近の新聞ではペットホテルの記事が多い、次ぎにその記事を紹介する。

ペットホテル・シッターはペットが一般化し始めた頃から動物病院、ペット美容院、ペット販売業者等兼業されていた。それらの多くは今でも籠・犬舎など狭い所に押し込まれての預かり業であった。伝染病に感染したり、怪我を負ったり、ストレスが高じたりペット愛好者にはかなり不満があるようである。動物愛護法に基づく「取扱業者」の施設基準はあるが「ペットホテル」としての水準にはきまりは無い。

ペットホテルの料金は1泊大小により小型犬・猫で3,000円から大型犬10,000円ぐらいで食事付である。散歩付は別料金を支払うのが一般的のようである。千葉県でのホテルは約190軒弱くらいで柏市・我孫子市では20軒程度らしい。専門のホテル業ではなく兼業での営業の模様である。

読売新聞2005年11月30日付けで12月1日開業の成田空港でのペットホテルを紹介している。海外旅行者向けのペットホテルである。出発直前にペットを預け、帰国後すぐに逢えることが出来る。関西空港では数年前から営業をしている。中部国際空港にも開業の予定とのこと。成田空港のペットホテルの設備内容はシングル、ツイン、ファミリー、空調付スイートルームを備えている。部屋数は150室であり、犬、猫、ハムスター、フェレットなど最大250匹収容できる。24時間営業でスイートルーム(6畳の個室)は1泊20,000円スタンダードルーム小型犬で4,000円からである。付属設備には動物病院、美容院、トレーニングジムを備えている。預けたペット飼主が外国でパソコン・携帯電話を利用してペットの様子を画像で見るサービスもある。国内最大級のペットホテルである。業者の責任者は「今までのペットホテルでいわれてきた課題に取り組み、安心・便利・快適・清潔を目指しました」と胸を張る。2005年12月13日のNHK午後6時からの首都圏ネットの中で成田空港のペットホテル戦争を放映していた。一番早く開業していたホテルは20年も前からである。現在空港周辺に20軒のペットホテルが凌ぎを削っているとのことである。

犬の美容である毛のトリミングを営業しているサービス業種はペットサービス業の中で一番事業所数が多い(表2及び3)。しかし市場規模の資料は皆無である。トリマー(美容員)に関して資料は無いが、女性が個店を開いているのが街中で多くみられる。

トリマーの資格は民間認定資格である。JKC（ジャパンケンネルクラブ）認定の養成機関卒業者への認定資格が多数である。その他各種専門機関の独自で認定している資格もある。勿論資格認定が無くても実力があれば問題はない。

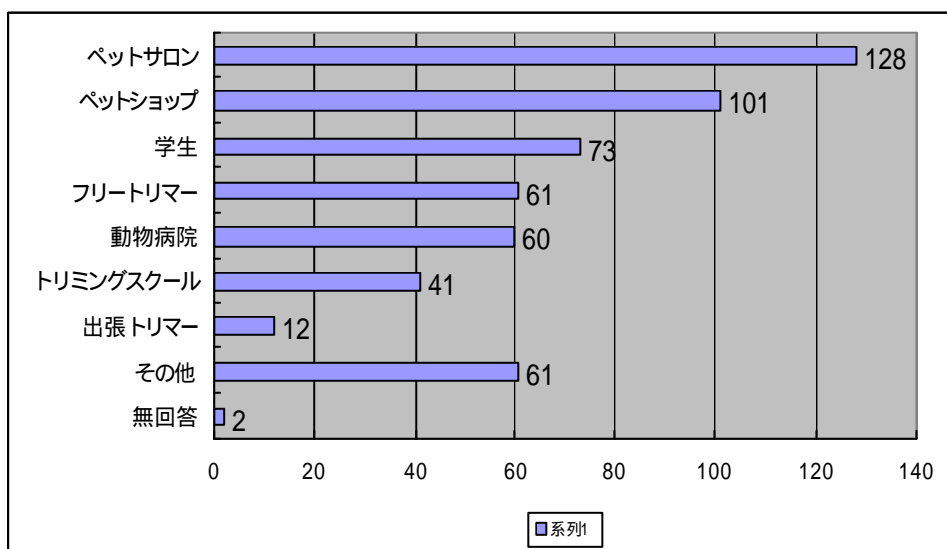
トリマーの収入は初任給 13? 15 万円で、その後も余り昇給は期待できないとのこと。図

6 はトリマーの働いている場所である。個人営業は全体の約 14%で、ほとんどはペットサロン（23.7%）・ペットショップ（18.7%）・動物病院（11.1%）・トリミングスクール（7.6%）などで雇われて働いているのが 61%を占めているのが現状である。収入は期待出来ないのに他に転職する人も多いとのこと。ペットが好き、ペットに関する仕事がしたい意思が強いが、将来独立してペットサロン・ペットショップを営みたい人が従事している様である。

トリミング料金は犬種により異なる。体型の大小、毛の量の多少、手間の掛かる犬種等でシャンプー代は 2,500? 10,000 円の差がある。カットは 4,000? 20,000 円である。また、ノミ・ダニ取りシャンプー、薬用シャンプーなどオプションは別料金である。

例えば人気 1 番のダックスフンドはシャンプー 3,000 円、カット 4,500 円。2 番人気チワワのシャンプー 2,500 円、カット 4,500 円。毛が長くチョツトおしゃれな 3 番人気のプードルのシャンプーは 4,000 円、カット 6,500 円である。<sup>26)</sup>

図 6 トリマーの勤務先別（トリマー 539 人のアンケート、2003 年）



出所：トリマーナビ <http://www.torimmer-navi.com/>。

ペットサービス関連には上記の他、新聞・雑誌・テレビ等メディア、インターネット、犬の訓練所、トリマーなどの養成所（専門学校）葬儀関連、ペット関連のコンサルタント業などがある。これらの概況は把握し難いし売上等不明である。ただ将来ともに発展していくであろうと思われる。

## ）おわりに

ペット関連産業の全体の市場規模は正確な統計資料は見当たらない。正確なのは、ペットフード関連の工場出荷額と量のみである。種々の資料から推定すると少なくともペット関連産業の全体市場規模は1兆円であり、大目にみれば1兆5千億円にも達している。将来もまだしばらくは個々の種目での減少傾向は見られるが、全体での市場規模拡大は期待できる。産業形態の特徴はペットフード、ペット関連品の一部の生産とフード・関連品の流通は大企業が担っている。一方ペットそのもの自体（生体市場）の市場、今後発展の期待が出来るサービス関連市場は個人を含め比較的小規模企業が携わっているし、今後もそのような形態が維持されていくものと思われる。生体市場は飼主の趣向性に左右されるし、生産も牛・豚・鶏の家畜のように生産性の高い生産方式は取りにくい。ペット関連サービス市場において、人間を対象としている医療市場などのように大病院の出現はペット医療施設では考えにくい。訓練サービスも人間の基礎教育学習に似ていて、いや人間の子供の教育より個々個体を対象にして1対1で訓練しなければならない。大規模運営より小規模運営に適している産業であるのではないかと思う。

日本人口の2005年7月現在14歳未満の人口は14,598千人（全人口構成比13.8%）に対して推計2004年犬猫飼育数は24,000千頭余りである。ペット数が子供の数より9,400千も多いのである。日本中犬猫が溢れている感じである。子供の数とペットの数のバランスにいささか一抹の違和感を禁じえません。しかしながらペット産業はまだまだ発展して行く有望な産業であろう。

ペット産業の発展は日本の社会生活の様式が個人化しているのも一つの要素であろう。例えば食生活において個食・孤食傾向が高まっている。このような生活は心に何か満たされない何かがあるのではないか。世帯も二世帯以上の数は少なくなって、若年層では一人世帯、老年層では一人世帯・二人世帯が普通になってきて、寡った様な家族の絆が薄くなって潤いが欠けてきている。経済生活においても自由市場経済が個々競争の激しさが増し、しかも情報が溢れ生活の流れが迅速になってきている。このような生活環境の中でペットに心の安らぎや生きる意欲を託する人々が多いのであろう。しかしすべての人々がペット愛好者ではない。ペットと人間社会とのより良い共生の関係を確立することは必要である。

より良い共生社会の課題を探ってこの論を終わりにする。

外来種ペットの逃走・遺棄と生態系の破壊・農林水産への被害

ニシキヘビ・イグアナ・サソリ・ワニ・アライグマ・クワガタ虫・カブト虫等外来種の輸入ペットが増加している。これらの逃走・遺棄が最近世間を騒がしている。2005年6月に特定外来生物被害防止法（外来生物法）が施行された。「特定外来生物」の指定を受ければ輸入・販売・飼育・運搬が原則禁止される。違反者には懲役刑・罰金が科せられる。生態系破壊では、ブラックバス・アライグマ・ハチなどがよく知られている。輸入クワガタ虫・カブト虫等昆虫類は指定されていないが、年間数千万匹輸入されているといわれている。



る。在来種との競合排除・交配などの心配がなされている。外来種のペット愛好者は日本の生態の擁護、農水産物への被害等に心を配らねばならない。すべてのペット愛好者は最後まで飼育に責任を負わねばならないが、必ずしも飼育マナーが守られていない。

#### 犬の躰・散歩と共同住宅での飼育

犬ペット先進国の英国では犬の躰が飼主の責任としてよくなされているとされている。日本ではまだ犬の躰に関心が充分でないようである。犬の公害は排便・吠え声・臭い・抜け毛・人への危害である。飼主はペットが可愛いので自分のペットには寛容である。他人に対しての考慮が一般的に不足していると言われる。道・公園での散歩に規則を守ることが最低のマナーである。公園によっては犬猫入園禁止の所もある。国立公園内では犬猫ペットを持ち込めるが綱をはずして放すことは禁じられて違反者には罰則がある。

共同住宅では最近ペット飼育が可能な所が増えている。住民の欲求が強くなってきたからだろう。一方ペットの苦情も多く後を断たないようである。管理組合理約で細かい規則を制定しペット飼育者に厳しく遵守してもらうよう住民全体で見守る必要がある。管理組合と協力してマンションのペット飼育を支援する会社もある。躰や散歩のマナー教室を開催して住民同士のペットトラブル解消に相談にのる会社もある。(27)

#### 捨て犬猫と外猫

先に述べたごとく年間約 50 万頭の犬が全国の動物愛護センターで致死処分されている。2005 年 9 月 14 日午前 NHK ラジオ首都圏ニュースの中で世田谷において「捨て犬写真展」が開かれたことを報じている。保護センターで捨て犬の表情を映した写真である。犬の飼主のマナー向上のキャンペーンである。費用もそれなりに税金から支出している。

千葉県動物愛護センターによると 2004 年 1 年間での千葉県で犬 8,613 頭、猫 10,216 頭が致死処分された。(28)

2005 年 12 月 6 日午前の NHK ラジオ首都圏ニュースで杉並区内の飼い猫に名前・連絡先のあるマイクロチップを埋め込む義務化を目論んでいることを報じていた。区内に 4,000 頭の外猫がいるそうである。この外猫の減少と不妊去勢手術を施すことが目標である。

どの課題も飼主のマナーが不足していることによる。千葉県動物愛護センターでは次のようなことを呼びかけている。

動物を飼ったら、最後まで面倒をみる

犬・ねこには不妊去勢手術をする

動物を捨てたり、いじめたりしない

犬の放し飼いをしない

ねこは室内で飼養する

その上にペット愛好者は他人に迷惑が掛からないように十分に注意し、他人への思いやりを怠ってはならない。

ペット関連業界も個々会社・団体ごとにペット愛好者に飼育マナーの指導・向上を行っているが、現状の飼育マナーは満足のいくものでない。今後益々ペットの人への有益性

が重んじられ、認識されていくと思われる。業界全体で飼主の飼育マナーの向上に時間とエネルギーを業界全体で取り組むことは、今後よりペット関連産業が発展していくためには必要であると思う。

## 注

- 1) M&M Research Institute <http://www.m-m.co.jp/>。
- 2) M&M Research Institute <http://www.m-m.co.jp/>。
- 3) 森岡孝二「働きすぎの時代」岩波新書 2005 年 8 月 p19? 21。
- 4) 総務省「家計調査報告書」<http://www.stat.go.jp/data/kakei/1.htm>。
- 5) エース証券(株) <http://www.ace-sec.co.jp/>。
- 6) 日本ペットフード工業会 <http://www.jppfma.org/>。
- 7) (財)千葉県動物保護管理協会 <http://www.c-animal.jp/>。
- 8) 北海道豊頃町社会福祉協議会 <http://www.h3.dion.ne.jp/>。
- 9) 朝日新聞 2005 年 8 月 11 日付け。
- 10) 日本ペットフード工業会 <http://www.jppfma.org/>。
- 11) 日本ペットフード工業会 <http://www.jppfma.org/>。
- 12) 旭化成「ペットと暮らす家」<http://www.asahi-kasei.co.jp/>。
- 13) 旭化成「住まいとペットに関するアンケート」<http://www.asahi-kasei.co.jp/>。
- 14) 総務省「家計調査報告」2001 年版? 2004 年版第 10 表、17 表。
- 15) 旭化成「ペットと暮らす家」<http://www.asahi-kasei.co.jp/>。
- 16) 旭化成「住まいとペットに関するアンケート」<http://www.asahi-kasei.co.jp/>。
- 17) 環境省「ペット動物流通販売実態調査」2003 年。
- 18) 日本アニマル倶楽部 <http://www2.osk.3web.ne.jp/~mikami01/>。
- 19) 旭化成「ペットと暮らす家」<http://www.asahi-kasei.co.jp/>。
- 20) 農林水産省「ペットフード産業実態調査報告」2003 年 <http://www.maff.go.jp/>。
- 21) ジェイネット.コム(株)<http://www.pecohouse.com/>。
- 22) 環境省「ペット動物流通販売実態調査」2003 年。
- 23) 旭化成「ペットと暮らす家」<http://www.asahi-kasei.co.jp/>。
- 24) 日本臨床獣医学フォーラムは 1998 年発足。動物医療の普及と人間と動物がより快適に暮らすことのできる豊かな社会づくりを目的としている。
- 25) 朝日新聞 <http://www.asahi.com/business/>。
- 26) ムラウチホビー <http://www.murauchi-hobby.com/>。
- 27) 読売新聞 2005 年 12 月 10 日付け。
- 28) 千葉県動物愛護センター <http://www.pref.chiba.jp/>。

## 参考文献

旭化成 <http://www.asahi-kasei.co.jp/>。

朝日新聞。

朝日新聞 <http://www.asahi.com/business/>。

AH.キャッチャー/A.M.ベック編コンパニオン・アニマル研究会訳「コンパニオン・アニマル」誠信書房 1994 年。

エース証券(株) <http://www.ace-sec.co.jp/>。

M&M Research Institute <http://www.m-m.co.jp/>。

環境省「ペット動物流通販売実態調査」2003 年。

(財)千葉県動物保護管理協会 <http://www.c-animal.jp/>。

ジイネット.コム(株)<http://www.pecohouse.com/>。

総務省「家計調査報告書」<http://www.stat.go.jp/data/kakei/1.htm>。

千葉県動物愛護センター<http://www.pref.chiba.jp/>。

動物の愛護及び管理に関する法律。

日本経済新聞。

日本ペットフード工業会 <http://www.jppfma.org/>。

農林水産省「ペットフード産業実態調査報告」2003 年 <http://www.maff.go.jp/>。

林良博「ペットは人間のお医者さん」東京書籍 2001 年。

「ペット年鑑 2002/2003 年版」野生社 2002 年。

北海道豊頃町社会福祉協議会 <http://www.h3.dion.ne.jp/>。

毎日新聞。

ムラウチホビー<http://www.murauchi-hobby.com/>。

森岡孝二「働きすぎの時代」岩波新書 2005 年 8 月。

読売新聞。